

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月29日

JAMA解説:妊娠中に3回目のmRNAワクチンを接種すると、母体と胎児の抗体レベルが上昇する

### 【松崎雑感】

6月24日のコロナ情報の続編です。妊婦さんと新型コロナワクチン接種についてのJAMAの解説記事です。母体がワクチンを受けると、胎児 = 新生児の新型コロナ抗体レベルも十分上昇するという事です。憂慮される副反応は見られなかったという事です。

「1回の接種で2人の命が救われる」的なスローガンで、妊婦さんへの新型コロナ接種キャンペーンが進められています。

妊娠中に3回目のmRNAワクチンを接種すると、母体と胎児の抗体レベルが上昇する

Abbasi J. COVID-19 mRNA Vaccine Booster During Pregnancy Increases Maternal and Fetal Antibodies [published online ahead of print, 2022 Jun 22]. *JAMA*. 2022;10.1001/jama.2022.11145. doi:10.1001/jama.2022.11145

## 要点

妊娠第二期に3回目のファイザーワクチンを接種した場合、2回接種妊婦よりもずっと高い抗体価が得られることが分かった。

新生児の抗体レベルにも同様の効果が見られた。ワクチン3回接種で母体と新生児に十分な抗体レベル増加がもたらされることが分かった。

## 研究の背景

妊婦はワクチン2回接種により、新型コロナウイルスに対する抗体価が増加することが昨年明らかにされているが、今回3回接種と2回接種の免疫反応の差を明らかにする調査が行われたわけである。

## 研究の意義

妊娠中あるいは妊娠を予定している人々は早産などの新型コロナ重症化リスクが高い。

このため3回目接種が勧奨されているが、3回目はもとより、2回目接種を完了した妊婦もそれほど多くない。

CDCによれば、米国では、妊婦の72%が今年5月までにモデルナ1回あるいはファイザー2回を完了している。

しかし、ブースター接種完了率はまだ48%に留まっている。

イスラエルにおける妊婦のブースター接種完了率はわかっていないが、妊娠可能年齢の女性のブースター接種完了率は50%程度と報告されている。

## 研究の方法

241名の妊婦を対象として、ワクチン接種から平均15週後の抗体レベルを2回接種（121名、出生児107名）と3回接種（120名、出生児109名）の間で比較した。

## 研究結果

抗体レベルは3回接種妊婦で4485AU/ml、2回接種妊婦で1122AU/ml。接種後の抗体レベルは漸減したが、減少速度は3回接種群で低かった。

出生児の抗体レベルは3回接種群で有意に高かった（8773AU/ml 対 3280AU/ml）。3回接種では母体の2倍の抗体レベルが出生児に観察された。

## 研究のリミテーション

この結果について、エモリー大学の産婦人科教授デニス・ジェイミーソン氏は、行き届いた研究であり、3回目接種が高いレベルで継続する抗体反応をもたらしたことが明らかにされたと語った。

ただし対象者数が少なく、人口全体を代表する集団となっておらず、ワクチンの種類もmRNAワクチンだけであるため、この結論を米国全体に当てはめることはできないと述べている。

ブースター接種により高い抗体レベルが得られたというが、感染を防ぐために必要な抗体レベルが不明であるため、抗体レベル別の感染リスクを調査する必要がある。

3回目接種を受けた妊婦と受けない妊婦で感染率や重症化率が違うかどうかを調査する必要もある。さらに出生児の新型コロナ感染リスクの差についても検討が必要である。

## 臨床的意義

新型コロナ抗体はワクチン接種後漸減するため、妊婦に対してはできるだけ妊娠の後期に接種する方が良いという考えもある。

しかし、最初の2回接種の済んでいない場合、あるいは妊娠初期がブースター接種の時期にあたる場合は、妊娠第二期まで接種を延期する必要はないだろう（早く接種した方が良い）。